

かいづか文化財だより

# テンパス



TEMPUS

2001年(平成13年) 10号

発掘調査現地説明会



歴史文化セミナー



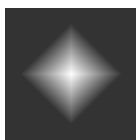
歴史散歩



郷土資料展示室の展示



教育委員会では、市民のみなさまが文化財に親しんでいただけるよう、歴史文化セミナー、歴史散歩、発掘調査現地説明会、郷土資料展示室での展示などさまざまな活動を行っています。市の広報などでお知らせしていますので、ぜひご参加ください。



# 土の中に見えた昔のかいづか

- 平成12年度の発掘調査から -

平成12年度において、28遺跡51地点の発掘調査、遺跡外11地点の試掘調査を行いました。調査の結果、古代から近世まで約1,600年ほどの歴史の流れを知ることができました。その中で大きな成果を得た加治・神前・畠中瓦窯についてはテンプス9号で紹介していますが、今回はその他の成果もあわせて、時代ごとにひも解いていきましょう。遺跡名、調査面積は下の一覧表に載せているので参照してください。

## 平成12年度発掘調査一覧

遺跡名	面積㎡	所在地	遺跡名	面積㎡	所在地
長楽寺跡	26.19	脇浜	堤遺跡	300.00	堤
地藏堂廃寺	11.10	地藏堂	王子遺跡	4.07	王子
秦廃寺	12.80	半田	脇浜遺跡	25.60	脇浜
水間寺遺跡	38.00	水間	今池遺跡	25.00	畠中
堀遺跡	32.00	堀	三ヶ山西遺跡	12.00	三ツ松
貝塚寺内町遺跡	241.35	北・南・西・近木・中	名越遺跡	18.00	名越
加治・神前・畠中遺跡	2818.00	加神・畠中	地藏堂遺跡	27.60	地藏堂
明楽寺跡	11.00	沢	津田遺跡	25.50	津田南
沢共同墓地遺跡	9.75	沢	小瀬遺跡	170.31	小瀬
沢城跡	30.44	沢	沢新開遺跡	4.20	沢
新井ノ池遺跡	84.90	新井	東遺跡	12.10	東
半田遺跡	27.00	半田	水間二ノ戸遺跡	21.00	水間
瀬池遺跡	25.50	沢	海塚遺跡	4.80	海塚
積善寺城跡	11.10	橋本	合計	4058.46	
清児遺跡	29.15	清児	遺跡外	440.40	

## 古墳時代（3世紀～6世紀）

地藏堂遺跡で古墳時代の遺物を含む層を確認しました。隣にある南小学校の敷地では埋没した古墳を発見しているほか、前方後円墳、地藏堂丸山古墳が築かれるなど、古墳時代には様々な活動が行われていたことが確認されました。

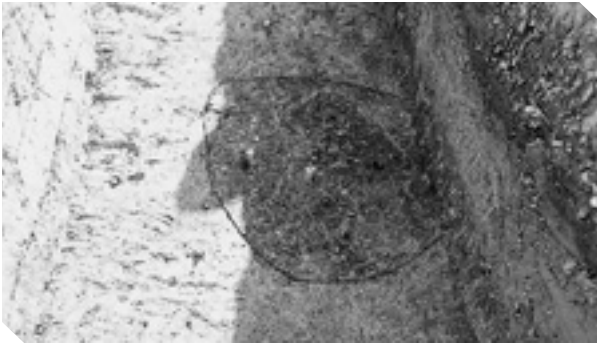
また、脇浜遺跡では古墳時代前期の溝跡を発見し、これまでの調査と合わせて集落があったものと考えられます。



脇浜遺跡の古墳時代前期溝

## 奈良時代（8世紀）

半田遺跡で柱穴や溝跡、名越遺跡で溝跡を発見しました。とくに半田遺跡のある府営半田住宅周辺は遺跡が集中し、奈良時代の寺院、秦寺があった場所と推定されています。これまでの調査で建物跡や溝跡が見つかっており、今回見つかった柱穴や溝跡も秦寺に関係したものと考えられます。



半田遺跡の奈良時代柱穴

## 平安時代（8世紀末～12世紀末）

加治・神前・畠中遺跡で瓦窯を発見したほか、堤遺跡で溝跡を発見しました。また堤遺跡と王子遺跡では当時の遺物を含む層を確認しています。

## 中世（13世紀～16世紀）

ほとんどの調査区で耕作の跡や耕作した土層を確認しました。特に沢共同墓地遺跡や清児遺跡ではそれまで川原だった場所を開発したり、名越遺跡では盛土による整地をした後に耕作を行うなど、大規模な開発を行っていたことがわかりました。



沢城跡の中世耕作跡

沢城跡、水間二ノ戸遺跡では溝跡を発見し、中世の沢、水間両村の範囲を考えるうえで貴重な調査となりました。

## 近世（17世紀～19世紀中ごろ）

貝塚寺内町遺跡ではほとんどの調査区域で町屋を発見しています。調査では建物に伴う土間層や礎石などを確認しています。ほとんどの町屋は土間層や礎石が前面の道路に面した場所であり、裏側が庭になっていました。今後このような調査を続けていけば中世～近世の町屋の景観を復元できるものと思われま



貝塚寺内町遺跡の土間層

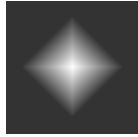
以上の他、水間寺遺跡では現水間寺が建てられた江戸時代の整地層や溝跡、今池遺跡では中世以前の溝跡を確認しています。

沢新開遺跡は河口部で土地が安定しないため中世以前には開発が行われず、近世以降に開発されていることがわかりました。

しかし近代以降の開発で土地を削られてしまったため、遺構や遺物が残っていない遺跡もありました。

遺跡外では千石堀城跡の近くで近世の護岸施設を持つ遺構を発見し、遺跡範囲が広がりました。

紹介した調査は、ほとんどが小範囲のものですが、今年度の調査だけでもほんの少し私達祖先の歴史を知ることができたのではないのでしょうか。今後もこのような調査を続け、貝塚の歴史をより具体的に復元していければと思っています。



# 蓮如直筆の六字名号

～市の文化財を指定しました～

教育委員会では、2月5日付けで、貝塚市文化財保護条例に基づき、書跡部門から本願寺中興の蓮如上人直筆の墨書六字名号2幅を市の文化財に指定いたしました。今後も各種調査の成果に基づき、文化財の指定をすすめる予定です。

## 有形文化財 書跡

### 1. 妙順寺 紙本墨書六字名号 蓮如筆

1幅 縦88.3cm×横36.5cm(軸装) 室町時代

### 2. 善正寺 紙本墨書六字名号 蓮如筆

1幅 縦82.8cm×横36.8cm(軸装) 室町時代

市内三ツ松の妙順寺は、寺に所蔵される江戸時代の記録「傳言記」によれば、蓮如がこの地を訪れたときに、当地の豪族の南兵衛太郎が仏法に帰依し、道円の法名を授けられて開基となった寺です。その際、書き残されたとされる六字名号は、筆跡に躍動感があふれ、虎斑と呼ばれる文字のかすれが認められます。これは、蓮如が紙の下敷きに筵(畳表)を用いていたためにできたとされるものです。花押により蓮如筆と確定できる大阪市浪速区所在の願泉寺所蔵のもの(大阪市指定文化財)とも酷似しており、蓮如自筆と考えられます。

市内王子の善正寺は、安永9年(1780)に記された寺所蔵の「略縁起」によれば、15世紀後半、地元の豪士出原善右衛門が仏法に帰依して草創した真言宗道場がもととなっています。蓮如が和泉・紀州方面布教の際に投宿したことがきっかけとなって浄土真宗に改宗し、その際、六字名号を授けられたとされています。こちらの六字名号は、文字が太く筆の走りがやや遅く感じられますが、前出の2例に酷似しており、蓮如筆と考えられます。

これら蓮如筆の六字名号は、本市域における中世後期の真宗勢力の形成や根来衆との関係、

さらに貝塚寺内町の成立を考えるうえで貴重な資料と言えます。

## 六字名号とは？

「南無阿弥陀仏」という6文字の墨書が六字名号です。「名号」とはもともと仏の名前を意味します。浄土真宗では、これを名号本尊ともいい信仰の対象としてきました。阿弥陀如来の名前をとることに重きをおくため、名号の崇拝は仏像にたいする崇拝と同じこととなります。そのため、開祖親鸞は本尊として名号を書き写して信者(門徒)に与えました。親鸞以来の宗主は「帰命尽十方無碍光如来(きみょうじんじっぽうむげこうによらい)」という十字名号を書いて信者に与えていましたが、第8世蓮如のころから「南無阿弥陀仏」の六字名号を与えるようになりました。とくに、蓮如と第9世実如は布教と教団勢力の拡大のために各地におもむき、みずから筆をとって六字名号を紙に書きのこし、その地の道場に与えたといわれています。なお、蓮如は「木像より絵像、絵像より名号」といい、名号を本尊とすることを強調したといわれています。

## 蓮如上人はどんな人物？

蓮如は本願寺第8世法主で、開祖親鸞がなくなったあと、衰えつつあった教団を立てなおした中興の祖といわれる室町時代の僧侶です。応永22年（1415）京都大谷の地にあった本願寺で生まれ、長禄元年（1457）に本願寺第8世になりました。しかし、当時は比叡山延暦寺による弾圧がはげしく、寛正6年（1465）京都大谷の本願寺が破壊されてしまいます。その後、各地を転々としますが、文明3年（1471）越前吉崎に「吉崎御坊」を建立します。吉崎での布教はにぎわいをみせ、北陸を中心にとおく奥

羽からも信者が集まるほどでした。しかし、そのいきおいが加賀の守護富樫氏のおそれるところとなり、同7年に吉崎をしりぞき、摂津・河内・和泉などを布教してまわりました。

そして、13年に京都山科の地に「山科本願寺」を再興し、晩年の明応5年（1496）には大坂石山の地に「石山（大坂）本願寺」をたて、同8年85歳でなくなりました。

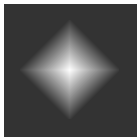
16世紀後半の戦国時代には、本願寺勢力は織田信長に対抗し石山（大坂）合戦をまじえるようになりませんが、蓮如はこうした教団勢力の基礎をきずいたといえます。



妙順寺 紙本墨書六字名号



善正寺 紙本墨書六字名号



教育委員会では平成7年度から平成12年度にかけて、市内の文化財についての専門調査を実施してきました。今回はその成果として、本市近木に所在する妙泉寺の歴史を紹介します。

妙泉寺は法涌山と号す身延山久遠寺末の寺院で、江戸時代には京都の大光山本圀寺の末寺でした。当寺には、天保12年（1841）にしるされたとされる「法涌山略縁起」があります。以下、この縁起をもとにその歴史をひもといてみましょう。

妙泉寺はもと岸和田城内にあったといわれており、開基は堺の成就寺第5代の日詮です。その後、王子村（本市王子）の赤坂千家に移転しますが、根来争乱の兵火にかかり焼失し、南貝塚村（本市海塚）野中へうつります。さらに貝塚の谷町（本市近木）に、そして現在地である近木之町裏ノ側（同上）に寺をうつします。縁起ではこの時期を慶長3年（1598）のこととし、そのときの住職であった法泉院日喜を当寺の初代としています。

また、縁起には妙泉寺の隠居寺であった海塚の三十番神堂についてもしるされています。こ



妙泉寺

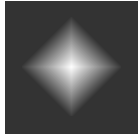


木造 日蓮上人坐像  
像高 33.5 cm 桃山時代～江戸時代初期

の堂も日詮上人が建立したもので、貝塚へうつるときに拝殿のみが残されていました。のちに、妙泉寺第5代の日順がこの堂へ隠居し、そのときに境内がせまいため檀家であった中与左衛門家（岸和田藩の家老）の隠居「中夢酔齋」から田地を寄付され、「知新庵」と名づけられました。

三十番神堂については、テンプス8号において版木にきざまれた「帰洛開運高祖略縁起」を紹介しました。そこでは京都から堺の成就寺に落ちのびてきた本山本圀寺第14代日助上人（成就寺第6代）が日蓮上人像を彫刻し、それが妙泉寺につたわっているとありました。妙泉寺には、銘文などは確認できなかったものの、それと思われる日蓮上人像が所蔵されており、成就寺との深い関係がうかがわれます。

今回は妙泉寺が所蔵する「法涌山略縁起」を紹介しました。縁起の内容については、それが江戸時代末期にしるされたものであるため、さらなる検討が必要です。これらの縁起や妙泉寺にのこる多数の仏像彫刻などをふくめて、今後も総合的に研究がすすめられることが期待されます。



# 要家文化財総合調査に向けて

- 平成 13 年度から 5 ヶ年かけての調査 -

貝塚市域には、江戸時代に村役人を勤めていた旧家が、先祖代々受け継がれてきた場所に、現在でも多くのこされています。

その中で、畠中村・神前村両村の庄屋を勤め、岸和田藩の村々を取り仕切る七人庄屋でもあった要家は、今も往時の面影をしのばせるたたずまいをのこしています。

歴史を遡っていきますと、天正 13 年( 1585 )、秀吉の根来攻めの際、畠中城に立て籠もった、近木庄の豪族神前要人宗行が祖先であると考えられます。その後戦乱の世も終わりを告げ、江戸時代へ移ってからは、村役人として畠中村に住まいしていました。

現在のこされている屋敷は、ほぼ正方形で周囲を土塀で取り囲み、東側に長屋門を設けています。邸内には主屋・書院・土蔵・離座敷があります。なかでも離座敷は元文 3 年( 1738 )

の建物で、茶室を組み込んだ数奇屋風書院造と呼ばれる様式で建てられています。離座敷の北西には安土桃山時代の面影をのこす庭園が広がり、樹齢 400 ~ 500 年といわれるソテツをはじめ、大小の樹木が茂り、泉南地域では珍しい屋敷林を形成しています。

こうした建物や庭園のほか、数万点もの古文書がのこされています。主に村役人の立場から作成されたものですが、庄屋として、また岸和田藩領の村々を取り仕切る七人庄屋としての立場から書かれた「日記」は、広く泉南地域の村落社会を考える上で、貴重な史料となるでしょう。

これら貴重な文化財を有する要家については、今後様々な分野にわたっての総合調査をおこなっていきたいと考えています。今後の調査成果にご期待下さい。



◀ 東南にある長屋門 ( 玄関 )



長く連なる土塀は歴史を感じさせます ....

# 郷土資料室の刊行物

郷土資料室では、平成元年に開設以来、古文書や市内の仏教美術や民具などの調査研究を行ってきました。展示図録や歴史文化セミナーなどの事業に関する啓発冊子を刊行しています。以下にこれまで刊行したものを紹介いたします。これらについての購入・お問い合わせなどございましたら、郷土資料室あるいは社会教育課文化財係までお申し出下さい。

書名	刊行年月	価格	在庫	内容
貝塚の歴史と文化	平成元年 4月	500円	×	郷土資料展示室開設記念展示図録
貝塚の海とくらし	平成 2年 2月	300円		特別展図録
願泉寺の歴史と寺宝	平成 2年 5月	無料		特別展図録
近代学校教育のあゆみと貝塚	平成 3年 2月	300円		特別展図録
改訂 貝塚の歴史と文化	平成 4年 3月	500円	×	常設展図録
俳人松瀬青々と貝塚千古吟社	平成 5年 2月	500円	×	特別展図録
貝塚市郷土資料室事業報告	平成 6年 3月	無料		平成元年～5年度の事業紹介
貝塚歴史散歩マップ	平成 9年 10月	300円		平成 8年発行の増刷
『かいづか歴史文化セミナー』 講演記録第1集	平成 10年 3月	500円	×	第1・3・4・9回の講演記録
『かいづか歴史文化セミナー』 講演記録第2集	平成 11年 3月	500円		第7・12・14・15・19・21 回の講演記録
あきこちゃんの大冒険 -発掘調査から貝塚の歴史を学ぼう-	平成 11年 8月	300円		特別展図録
貝塚の空襲記録	平成 12年 3月	無料		旧貝塚町の空襲記録
改訂 貝塚歴史散歩	平成 12年 6月	500円		平成 9年発行の改訂版

平成 13年 2月 2日付

毎年 8月 14日に市内三ツ松で行われる盆行事『三ツ松明土行念仏』（チャンチャンヒキ）は、平成 10年に市の無形民俗文化財として指定されていたところではありますが、平成 13年 2月 2日付で大阪府の『記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財』として選ばれました。

## 編集後記

テンプス平成 8年 3月 31日に発刊して以来、今回 10号発行をむかえることができました。紙面も B5判から A4判へと生まれ変わり試行錯誤中です。さらに内容の充実に向けてがんばります。

\* \* \*

## かいづか文化財だよりテンプス 10号

平成 13年 3月 30日発行  
貝塚市教育委員会  
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目 17-1  
☎(0724) 23 2151  
印刷 (株)中島弘文堂印刷所



テンプスとはラテン語で「時」を意味します